

# 孔雀明王

動物園でも目を引く鳥、孔雀。この鳥が日本に来るのは、西暦六百年頃、推古天皇や聖徳太子の時代です。初めて孔雀を見た日本人はどう思ったのでしょうか。今まで見たことがないものが大陸から入ってくる感動は、情報過多の現代人では味わえないものであったのでしょうか。

インドにおいて孔雀は仏教が始まる以前から飼育されてきました。美しい羽根は、神経毒に効果があるとされ（実際にはないそうです）、毒蛇やさそりなどを捕食することから神格化されました。仏教では、孔雀明王として取り入れられます。毒蛇を食すことから、三毒の煩惱を食し、様々な福をもたらすと密教において信仰されます。

三毒の煩惱とは、さらにさらに欲しいと思ひ際限のない貪欲の煩惱、ちよつとしたことで文句をいい怒る瞋恚の煩惱、私はまだこうじゃないんだと現状認識ができない愚痴の煩惱です。



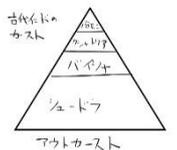
それがわかつちやいるけどできないから、真宗ではその者を目当てとしてすくわれる阿弥陀仏をたよりとしていくのです。

## こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

### くしゃみ

何故お彼岸参りの時期と花粉症の時期が重なるのか



しようか。眼の球を取り出して洗いたいし、くしゃみはとまらない。花粉症に悩む人とは友達になれそうな季節です。この「くしゃみ」を何故「くしゃみ」というのかというひとつの説に仏教が関わっています。

今から2500年程前、インドでお釈迦様がくしゃみをされました。すると周りにいた弟子たちが「クサンメ」と言いました。「クサンメ」とは長生きを意味する言葉です。インドではくしゃみをするといのちが短くなる風習から、いうようになりました。この「クサンメ」が「くしゃみ」へと変化をするという説です。

くしゃみに関する風習は多様です。古代ギリシャでは「ゼウスよ助け給え」と祈ったり、くしゃみしたら周りが敬礼をしたりと様々です。

中国では、誰かがうわさをしているという風習がありました。回数によっても意味が変わったようです。一例には、一回は褒められ、二回は悪口、三回は風邪などこれが日本に伝わったようです。あーこれを書いていく間にもくしゃみが・・・ハックション。

